

[HOME](#) > [釧路地域農業技術支援会議](#) 大地震発生時における酪農継続のための危機管理対策

釧路地域農業技術支援会議（北海道）

大地震発生時における酪農継続のための危機管理対策

カテゴリ 取り組み主体区分：[支援組織](#) 運営・経営形態：[任意組織・協議会等](#)

タグ | [有事の際の対応・リスク管理](#) | [ネットワーク・絆](#)

釧路地域農業技術支援会議は、釧路総合振興局管内の農業および関連産業が直面する課題の解決のために設置されている。同会議では、過去に、北海道太平洋沖では大地震発生の可能性が高く酪農主体の釧路地域農業に大きな被害が懸念されることから、地震による被害で酪農の生産活動に支障が生じた場合に、生産活動における必要最小限の機能を確保するため、事前の準備や計画の策定が必要であるかを検証し、取りまとめている。取りまとめたあたって想定した被害規模は「酪農施設に大きな損傷はないものの、農家生活を含めてライフラインに支障を来し、特に停電と断水により搾乳や生乳の管理・出荷ができなくなり、酪農経営に大きな影響を与える」というレベル。被害発生を想定して①準備、②事前作業、③緊急時対応、④事後復旧、の段階ごとに取り組みを整理した。現場で使えるように、対応手順やチェックシートなども作成している。

明日への道標

地域畜産災害再生支援事業

再生・復興の模範となる自立事例等を広く収集

HOME > 埼玉県武州和牛組合 強力なリーダーシップと地域仲間の信頼で作上げた埼玉ブランド「武州和牛」

埼玉県武州和牛組合（埼玉県）

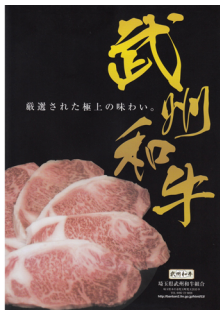
強力なリーダーシップと地域仲間の信頼で作上げた埼玉ブランド「武州和牛」

カテゴリ 取り組み主体区分：組織・グループ活動 運営・経営形態：任意組織・協議会等 畜種（畜産経営の場合）：肉用牛肥育
タグ | 地域畜産の存続を支える担い手対策 | 消費者等への理解醸成 | ネットワーク・絆



女性部の消費拡大活動

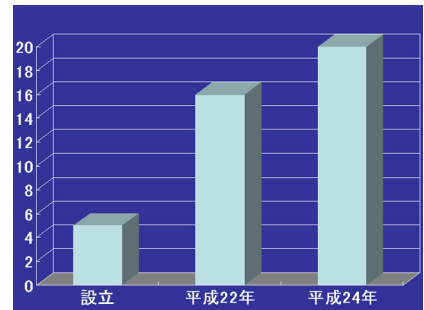
BSEの発生、その後の子牛価格や牛肉価格が大暴落し経営が危機に陥る中、肉用牛経営の安定と将来性を考え、埼玉県産ブランド牛肉「武州和牛」の歩みが始まる。代表の塚田正行氏が中心となり、強力なリーダーシップと豊かな経験と知識、そして何よりも地域の仲間から絶大な信頼を得て、ブランド化に取り組んだ。活動当初、組合員は乳雄肥育・交雑種・和牛とさまざまであり、飼養管理上の共通項目も少なかった。ブランドとしてゼロの状態から「形あるもの」に築き上げ、和牛で統一、地域に根付き、さらに東京食肉市場への上場も果たすブランドに成長した。トウモロコシや麦などをブレンドした武州和牛オリジナルの配合飼料を共通して使用し、さらに各組合員が独自の工夫をプラスして肉質の向上に努めている。現在、組合員農家は20戸、合計飼育頭数は黒毛和牛約7,000頭で、年間出荷頭数は約2,500頭。それぞれの生産者の考えをまとめあげ、和牛統一飼養をけん引したリーダーシップ。その下でみんなが1つにまとまった「ゼロ」からの「造形」は注目すべきである。



ポスター



パンフレット



(図) 組合員数の推移



組合員の牧場



販売促進アイテム

明日への道標

地域畜産災害再生支援事業

再生・復興の模範となる自立事例等を広く収集



HOME > 愛知県家きん消費回復実行委員会 愛知県の地場産業であるうずらの再生を支援した官民一体の協議会活動

愛知県家きん消費回復実行委員会（愛知県）

愛知県の地場産業であるうずらの再生を支援した官民一体の協議会活動

カテゴリ 取り組み主体区分：支援組織 運営・経営形態：任意組織・協議会等 畜種（畜産経営の場合）：その他
タグ | 鳥インフルエンザ | 販路再興の取り組み等 | 消費者等への理解醸成 |



愛知のにわとり・応援フェスタ（平成21年8月10日）

平成21年2月、豊橋市内の養鶏農家で鳥インフルエンザの発生の確認がされた。7農場の飼養うずら約160万羽は全て殺処分となり、出荷されていたうずら卵・廃鶏についても、埋却または焼却処分され、物流を含め全ての生産活動が止まり大きな被害を受けた。愛知県の地場産業である養鶏経営体の再開・再生へ向けて、県・市の行政と関係団体・業者等が一体となって協議会を組織し、諸活動を実施した。直接的な経営再開支援を担う組織のほか、被害の実態がなかなか把握しづらい風評被害に対しても、その対策活動を担う協議会を組織し、両協議会が両輪となって、県の地場産業である養鶏業への直接的・間接的な支援活動を実施。発生後ほぼ1年間にわたり、協議会参加の各関係団体・組織が連携し合いながら県内・外で活動が行われた。被災からの再生に向けて、被災者も含めた行政、関係団体・業者が一体的に、再生・復興に向けた共有の方針を持つことが重要である。



愛知のにわとり・応援フェスタ（平成21年8月10日）



豊橋農業まつり（平成21年7月18～19日）



ふるさと県人会まつり（平成21年9月12～13日）



天皇陛下御即位二十年奉祝まつり（平成21年11月12日）



畜産フェスタ（平成21年10月24～25日）



JA豊橋ふれあいフェスタ（平成21年12月5～6日）



JA豊橋ふれあいフェスタ（平成21年12月5～6日）



吊古屋市農業センターまつり（コチ協会）



たまご料理講習会（畜鶏連豊橋）



親子料理教室（畜鶏連海部）



海部アグリフェスタ2009（畜鶏連海部）



岡崎農業まつり（畜鶏連岡崎）



知多ヨウケイフェア（畜鶏連知多）



日本アクセス春季商談会（養鶏農協）



うずラッキー（ぬいぐるみ）

明日への道標

地域畜産災害再生支援事業

再生・復興の模範となる自立事例等を広く収集



HOME > ひょうご雪姫ポークブランド推進協議会 牛肉文化の関西で新ブランド豚肉「ひょうご雪姫ポーク」の確立を目指す

ひょうご雪姫ポークブランド推進協議会（兵庫県）

牛肉文化の関西で新ブランド豚肉“ひょうご雪姫ポーク”の確立を目指す

カテゴリ 取り組み主体区分：組織・グループ活動 運営・経営形態：任意組織・協議会等 畜種（畜産経営の場合）：養豚
タグ | 地域資源の有効活用 | 消費者等への理解醸成 |

ひょうご雪姫ポークブランド推進協議会 生産者



キムラ商店（木村友彦）



定岡畜産（定岡 太）



協和飼糧株式会社 上月ファーム



有限会社 高尾牧場

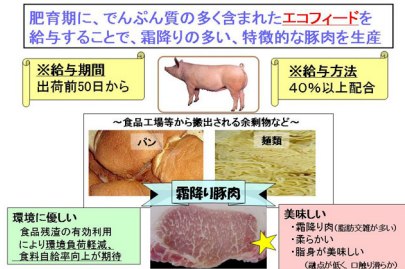
ひょうご雪姫ポークブランド推進協議会生産者

養豚生産農家4戸、流通・卸業者、飼料製造者と県および兵庫県畜産協会が協力し、兵庫県の新しいブランド豚肉「ひょうご雪姫ポーク」の生産振興を図っている。この豚肉には高たんぱく質飼料（小麦由来のエコフィード）の給与によりロース肉中に通常の約3倍の脂肪（サシ）が入るのが大きな特徴。さらに、一般の豚肉に比べて脂肪の融点が約3℃低く、オレイン酸が多く含まれるなど、食味に優れた、おいしい豚肉である。関西では牛肉が食文化の主流にあり豚肉の消費拡大は容易ではないが、市場に新たなニーズを創出し、神戸ビーフのような強いブランド力を目指している。ブランド化にあたり、①消費者へのPR活動、②流通業者、飲食店等への販路拡大活動、③一般公募による名称募集、商標登録などの活動、④協議会設立による協力体制の構築などを実施。生産者と関係者が一体となって、地道な地域ブランドの創出により畜産物の生産振興を実施している。



ひょうご雪姫ポーク ロゴマーク

「ひょうご雪姫ポーク」とは？



「ひょうご雪姫ポーク」の特徴

ひょうご雪姫ポークブランド推進協議会 生産者



キムラ商店（木村友彦）



定岡畜産（定岡 太）



協和飼糧株式会社 上月ファーム



有限会社 高尾牧場

ひょうご雪姫ポークブランド推進協議会生産者



2012年食肉産業会（東京ビッグサイト）に出展



スライスした雪姫ポーク

明日への道標

地域畜産災害再生支援事業

再生・復興の模範となる自立事例等を広く収集

[HOME](#) > [新生養豚プロジェクト協議会](#) 「特定疾病フリー」で新しい産地を目指す「新生養豚プロジェクト協議会」の取り組み

新生養豚プロジェクト協議会（宮崎県）

「特定疾病フリー」で新しい産地を目指す「新生養豚プロジェクト協議会」の取り組み

カテゴリ | 取り組み主体区分：[組織・グループ活動](#) 運営・経営形態：[任意組織・協議会等](#) 畜種（畜産経営の場合）：[養豚](#)
タグ | [口蹄疫](#) | [有事の際の対応・リスク管理](#) | [ネットワーク・絆](#)



口蹄疫の惨禍を忘れないよう川南町が建立した「畜魂慰霊碑」

口蹄疫による未曾有の被害を受けた西都・児湯地域では、大部分の豚（22万4,764頭）が殺処分され、無家畜の状態となり、オーエスキ病（AD）や豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）のない清浄な地域となった。そこで今回の口蹄疫発生を教訓として、西都・児湯地域を1つの農場と考え「特定疾病フリー」の新しい養豚産地として再建する思いから、養豚後継者若手有志が率先して再建プロジェクト準備委員会を立ち上げ、検討会、生産者との意見交換会、再建に向けたアンケート調査などを実施し、皆が一致団結して取り組む「新生養豚プロジェクト協議会」を発足させた。さらに、経営再開の条件をクリアするため、新生養豚プロジェクトチーム（構成員：生産者、獣医師、県、町、家保の各代表）をスタートさせ、種豚導入基準、地域防疫組織の強化、農場環境対策などの自主ガイドライン検討に取り組んだ。一方では国、県、農畜産業振興機構、市町の助成事業などを活用しながら、口蹄疫終息から4ヵ月経った平成22年11月から経営再開の運びとなった。平成24年3月末現在、農家数で57%、頭数で60%が経営再開を果たしている。



口蹄疫の惨禍を忘れないよう川南町が建立した「畜魂慰霊碑」



協議会会長の長友克裕さん



口蹄疫発生後に新たに設置された消毒ゲート（宮崎県川南町(有)共同ファーム）



畜魂碑

明日への道標

地域畜産災害再生支援事業

再生・復興の模範となる自立事例等を広く収集



HOME > 三河トコ豚極め隊 養豚生産者らが結集し、消費拡大活動を展開！ オリジナル加工品の商品開発にも取り組む

三河トコ豚極め隊（愛知県）

養豚生産者らが結集し、消費拡大活動を展開！ オリジナル加工品の商品開発にも取り組む

カテゴリ 取り組み主体区分：組織・グループ活動 運営・経営形態：任意組織・協議会等 畜種（畜産経営の場合）：養豚
タグ | 地域畜産の存続を支える担い手対策 | 消費者等への理解醸成 | ネットワーク・絆



隊長の鈴木美仁さん

「有数の養豚生産地である愛知県東部の三河地区で生産された、安全でおいしい豚肉を食べてもらいたい」という思いの養豚生産者と関連事業者らが結集し、積極的な情報交換による経営力の向上と消費拡大にむけた活動を展開しているのが「三河トコ豚極め隊」である。平成22年4月に結成し、(1)消費者第一の肉づくりをトコトン極める、(2)地域に根ざした畜産をトコトン極める、(3)持続的な経営をトコトン極める、という3条から成る「三河トコ豚極め隊憲章」を制定。各種イベントに参加して試食・販売を通じて豚肉のPRを行う一方、メンバー全員で各養豚農家のそれぞれの豚肉を素材にしたオリジナル加工品の商品開発にも取り組んでいる。ともしればライバルにもなりかねない地域の仲間同士が、ともにおいしい豚肉づくりに切磋琢磨しながら、かつ情報交換し、さらに豚肉の消費拡大、情報発信を通じて地域社会の活性化を目指している。



国際養鶏養豚総合展2012の出展ブース



イベントで陳列された加工品の数々



今後は食育活動を重点的に行う